

第20回県政ひざづめ談議結果概要

- 開催時間：平成23年3月16日 16:10～
- 開催場所：山梨県男女共同参画推進センター
- 対話グループ：やまなしエコティーチャー

○司会

それでは、お待たせいたしました。
知事が到着いたしましたので、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。
まずはじめに、知事からあいさつをお願いします。

○知事

皆さん、こんにちは。
今日はそれぞれお忙しい皆さんだと思いますが、こうしてお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。
日ごろ県の環境行政に、それぞれの立場で大変ご協力をいただいておりますこと、心からお礼を申し上げます。
皆さんは、エコティーチャーということで、環境に関してそれぞれ高い知識、経験を持っておられるわけでありまして、学校だとか、あるいは町内会とか、そういうところの環境教育の講師としてお願いしているということでもあります。
本県の場合には、環境行政を割と熱心にやっているつもりでありまして、県民の皆さんの意識も全国的に見ても高いのではないかなと思っております。
ノーレジ袋運動なども全国で2番目に始めましたし、また今、エコライフ運動ということで、マイはし運動だとか、あるいはマイバッグ運動だとか、あるいはマイボトル運動だとか、いろいろな活動を大勢の県民の皆さんや団体の皆さんに参加していただいております。
また、クリーンエネルギーを積極的に活用しようということで、何と言っても日照時間が日本一長い県でもありますし、自然エネルギー資源に恵まれている県でありますから、そういうものを大いに有効に活用しながら、クリーンエネルギーの面でも先進県を目指したいと思っております。
そういう中で皆さん方には、県民の皆さん方が環境に対して深い関心を持っていただくために、第一線でいろいろな形でご尽力をいただいているということでありまして、本当にありがたいことだと思っております。
今日はそういった日常の実践の活動の中で、お気付きの点だとか、あるいは県の環境行政について、いろいろなご意見、ご注文だとか、そういうことを何でもごつくばらんに、いろいろとお話をいただき、ご教示をいただければありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
今日はどうもありがとうございました。

○司会

続きまして、本日同席いたしております、県の担当者を紹介させていただきます。

環境教育ですとか環境保全全般の担当をしております、小野環境創造課長です。

○環境創造課長

小野でございます。よろしくお願いいたします。

○司会

それでは早速、意見交換をお願いします。

○知事

エコティーチャーは、大体どのぐらいの頻度で学校だとか、そういうところへ行かれるんでしょうか。年に何回ぐらい行って、講師をやっておられているんですかね。人によって、みんな違いますかね。

○参加者

そうですね。当然違いますね。

○知事

これは窓口といたらおかしいけれども、どこが。

○環境創造課長

林務環境事務所がそれぞれやっています。

皆さん方、エコティーチャーもですが、それぞれ独自のいろいろな活動をなさっておりまして、それでエコティーチャーのほうへ出させていただいて、やっ

○知事

それぞれ仕事を持ちながらおやりになっているわけですね。

そうはいったって……。どのぐらい行っておられますか。

○参加者

そうですね。12月、1月、2月と6回。小学校が多いです。大人も実はその平日に300回ぐらい、エコティーチャーというのではない別の形でやっています。小学生っていうのは、本当に素直ですね。

○知事

小学生はね。

太陽光の関係を主として……。

○参加者

そうですね。

先ほど知事がおっしゃったように、県のほうで最近、クリーンエネルギーということで取り組んでますが、山梨は、7年ほど前までは270キロワットしかなく、全国で38番目だったんですね。すごく低かったんですね。

それでいて、太陽のエネルギーが非常に多いということで、最近は非常にPRしていただいて、恐らくその10倍以上は盛んになってきて……。

○知事

それは主として家庭用の、やっぱり太陽光発電がそんなものだと。

○参加者

ちょっと一昨年なんかも、シンポジウムでお話をさせていただいたんですが、いろいろ私自身、個人的な意見もそうなんですが、やっぱり太陽光発電、家庭用

という、どうしても3キロ、4キロと小さいものですから効率が悪いんですね。

また、コストパフォーマンスもあるということで、そういった意味では山梨県に多い中小企業ですとか、いわゆる公共的な建物ですね。そういったようなところに、屋根へ付けると非常に効率良くなる。それに非常にコストも安くなるといったようなことがありますので、そういったような活動をしております。

今年度から5千万円ずつ、来年度から2回、補助金を付けていただくようになりましたが、それで多くの中小企業、喜んでおりました。

今そういう企業人が多く見学に来られるんですが、そういう紹介をしてやっておりますので、非常に助かっております。

ぜひ、来年度で終わることなく、していただければと思います。

○知事

太陽光発電をもっと増やしていくということになりますと、これからどうなんでしょうかね。そういう企業にお願いをするということも、もちろんあるわけですが、どうでしょうか。さらに増やしていくとなると。

米倉山なんていうところに大規模な太陽光発電所をつくらうとしていますね。

○参加者

私は考えは非常にいいと思いますね。

○知事

東電がやっているの。東電も大変ですね、だけど。

○参加者

ああやって企業、東電としてやっていくというところも、もちろんいいと思いますし、1つは市民の力で付けていくということもあろうかと思うんですね。ちょっと私にも、実際、中央市のほうでやっているんですが、市民の皆さんからお金を集めて、それで今度、太陽光発電ができたんですね。そういったようなことで、多くの皆さんが自分の家には屋根が少ないからつくらないけれども、何とかその気持ちだけでも、作り出したいということで、わずかなお金を出していただく。それをみんなで大きな太陽光発電をつくるといったことをやっているわけです。

○知事

場所はどこにつくったんですか。

○参加者

中央市の田富北保育園というところに。

○知事

なるほど。保育園につくったわけですね。

○参加者

そこは保育園で、今回、百数十人の方々からご寄付をいただきまして。

それも今、節電といいますが、計画停電で大変な時期ですけれども、非常にやっぱり太陽光発電があると、そういうときに使えるんですね。

今朝6時40分から停電になったんですが、もう6時40分に、朝、自宅も使えなかったから。テレビなんか見られるんですね。ですから、ちっとも怖くないん

です。安心なんです。

そういう地域の保育園ですとか、公民館にできますと、みんな地域の方も安心できるじゃないですか。

○知事

安心できますよね。いざというときにはね。

なるほど。何かきっかけにして、一段と太陽光発電が普及するかもしれませんね。

○参加者

やっぱり防災という面から考えても、分散型電源なんて必要になってきて、あの集中化ということも必要ですが、そこがダウンすると影響が大きいものですので、やっぱり県でも進められている燃料電池発電とか、そういうものがだんだん普及してきて、それぞれビルごとに自分が自分のところで、自前の電源を持つという。あるいは家庭は家庭で持っているという、そういうような社会がいいじゃないですかね。

○知事

そのほうが安定していますよね、社会としてはね。

○参加者

ただ、産業用となると、やっぱり大きな発電所が必要になってきますが、民生用ということでいけば、そういうものでカバーしていくということが、これからは必要になっていくと思いますね。

○知事

いかがでしょうか、何でも。

○参加者

今日写真を持ってきたんですが、この間、仕上がったばかりの機種です。

○知事

それはどこに設置してありますか。

○参加者

保育園の屋根です。

これは保育園の屋根で、仕上がったのが、つい3月14日なんですけど、ちょっとそれで、これが全部で9.2キロワットなんですけど、今おっしゃったように、これは保育園が自力で設置したのではなくて、地域の共同発電ということで、甲府市地球温暖化協議会と一緒にプロジェクトなんです。

資金が全部で600万円なんですけど、そのうち500万円を東京電力さんからいただきまして、残り100万円を地域の人たちと、甲府市地球温暖化対策協議会の皆さんと、それから園の保護者などで出し合っているんです。

皆さん大変この説明会を開いたときには、保護者の本当に9割近くが、太陽光発電を乗せてないという状況だったんですが、本当に関心をお寄せいただいて、たくさんの協力金もいただいて、これからではやってみようかということで、すごく普及啓発にもとっても役立つので、ぜひその小学校とかにも乗せたらいいなと思います。

○知事

その保育園で使っているわけですね、その電力は。

○参加者

そうです。

実際、先ほど申し上げましたけれども・・・。

○知事

民間の保育園ですか、それは。

○参加者

はい。民間です。私立の保育園なのですが、一応その地域プロジェクトということで。実際にこの地震で使い始めているので、一応、1, 500ワットのが2本、今使える状況なので、一応停電しても暖房も何とかありますし、ちょっとパソコンも全部というわけにはいかないですが、一応、園児のそういうライフラインの確保はできて、あとは自治会でも、ではそういうときには使わせていただくかということの話も持ち合っています。

○知事

こうやって、だけど停電してみると、売電もいいんですが、これで何か蓄電できればいいですね。

○参加者

そうなんですね。できれば本当に夜も使える。

○参加者

やっぱり蓄電池といいますと、今まで非常に値段が高いし、場所も取るというような問題がございましたので、やっぱりそれで日本も普及しないと思うんですね。今もうリチウム電池になりますけれども、やっぱり家庭でリチウム電池だけをやるというのは、やっぱりあまり進められないというか。

もちろん将来、電気自動車になったときに、それに対して、バッテリー代わりにはなるとは思いますが・・・。

○知事

電気自動車のバッテリーにね。

○参加者

やっぱり電気自動車もそんなに距離を走れるわけではないので、家でバッテリーにして、それをまた家で使っていたら、あまり自動車としての役目もないと。そのときはやっぱり燃料電池になると思うんですけれどもね。

○知事

将来的には、やっぱり自動車も燃料電池自動車になる、今お話のように。

○参加者

話を聞くと、来月は今度、今回の災害で携帯電話が使えなくなると、電池がなくなって。それを何とか小さいもので、コンパクトなもので電池の充電が可能になるものをつくろうというような話が持ち上がりまして、それを何か手掛けていこうじゃないかということで・・・。

○知事

手掛けていくって、何を手掛けるんですか、それは。

○参加者

今、屋根へ乗せていますよね。あれを、やっていくときに、どうしても薄いものだから、ちょっと持ち方が悪いと割れてしまうんですよね。1枚、1枚のものが。

その割れたものを利用して小さいものをつくろうと。そうすると、それによって、充電ができるようなシステムをつくっていいんじゃないかと。そうすれば、携帯くらいの充電は十分に賄えるだろうということ。

○知事

確かにね、そうですね。

○参加者

それから、この話は全然違うんですが、1つお聞きしたいんですが、昨日、私も環境部にいて、その会議のあと、環境部のほうでちょっといろいろ話を聞いたんですが、今、ゴミを収集している車ですね。その燃料が不足して困るという話が出ました。そういうものの何か対策というようなことを考えて、県としておられるのかどうか。

○知事

ゴミ収集車ですか。

○参加者

そうです。

○参加者

私、山梨県一般廃棄物協会の会長をしております、実は今日も組合関係と連絡を取り合ったんですが、本日の状況ですと、軽油と灯油のタンクローリーが、市のほうへ配送されてこないということでございまして、何とか、そうはいっても生活から出るゴミでしたら、収集しなければならないということで、それぞれその組合の中におきましては、法律の範囲内におきまして、それぞれ組合員が保管をするということで、お互いにヘルプ体制をしながら、もし燃料が切れたときには支障がないように収集するというような努力をしていますが、今もおっしゃられたように、もうそれすらなくなってしまうと、収集ができないというような状況も考えられますので、そこのところは何か。

○知事

石油も本当はかなりひっ迫してきて困りましたね。

資源エネルギー庁も備蓄石油を放出すると言っていましたけれどもね。被災地のほうを聞いていても、やっぱり水・食糧、それから燃料と聞いていますね。本当にひっ迫しているんですね。

やっぱり山梨県の中でも現に問題になっていますが、電気が切れたときに、やっぱり救急病院なんかは、みんな自家発電装置ですよ。自家発電装置がずいぶん普及しているんですよ。例えば、車の道路のトンネルとか、そういうものは自家発電装置がみんなそうですね。

それはいいんですが、相当な重油が必要になるんですね。このままいくと大変だという状態になっていますね、今ね。

○参加者

県としても、どこかその災害のときに使えるようなものを備蓄できるものが考えられないのかどうか。

今後、今、この山梨県も地震が頻繁に起きていますよね。ですから、いつどのような形になってくるか分からないわけですから、十分、県としても考えておいていただきたいなと思います。

○知事

ほかには。

○参加者

ぜひ、これをきっかけに太陽光に風が吹いたと思いますし、うちの家でも、すごく宣伝したので、きっと災害時にも、こうして使えるんだよということを、皆さん本当に思っています。

あとうちの園では支援センターのほうに、ペレットストーブというものを導入しているんですが、もちろん電源がないと、それも付かないんですが、でもペレットストーブは、今さっきも間伐材ではしをつくろうという、こういうものをいただいたんですが、間伐材でできたクズを固まりにして燃やすのがペレットストーブなので、ぜひそれを学校とか、そういう公共施設のところにあれば、何かあったときに、石油に頼らなくてもいいということを、やっぱり進めていくことが、もう石油に依存する時代ではないので、本当に原発のことも、こんなことになる、やっぱり原発ではなくて、石油ではない、何かそういうエネルギーといったら、やっぱり知事もお進めになっているように、その太陽光発電というのは、日照時間日本一の山梨にはもう打ってつけのものなので、ぜひそれをたくさん推進していただければ、ありがたいと思います。

○知事

ペレットストーブは、やっぱりこれは将来的には可能性がありますが、大いにね。岩手県あたりの利用度が非常に高いんですが、間伐材をペレットにして。

ただ、やっぱりエネルギーがまだ安定しないようなところがあったりするとうようなことも聞いたりするんですが。

○参加者

たまたまうちの園では、外国製のものを使って、カナダ製のものがちょっとデザインがいいので、それを入れたんですが、でもやっぱり外国製の物はちょっと使いづらくて、日本製のものもかなり今優れたものができていて、火力も安定していますし、とても使いやすいです。

○知事

山梨の場合には、特にハウスの重油使用というものが非常に多くてね。しかも油も高くなりましたからね。あれがペレットになるといいんですね。すごいいい。

○参加者

それと関連して、山梨は78%、約80%ぐらいが森林ですよ。

それと今、眺めても分かるように、人工林の手が入らなくて多いんですよ。ですから、その間伐へ手を付ければ、かなりの量の材木というか、そういうものが手に入ると思うんですよ。

だから、そのへんをぜひお願いしたいのは、若者の雇用も含めて考えると、かなりまだ森林対策というか、林業対策というのは、これからやっていかなければならないと思う。

それは治山治水のほうにも、みんなつながってきますし、そういう点ではぜひこういう災害の機会をとらえて、ぜひ雇用の促進と、それから山の保全をぜひやっていただきたいと思います。

○参加者

それと関連して。

山梨県はせっかく日本一があるわけですね。何が言いたいのかって、FSCなんです。FSCは日本の自治体で第1番目の県なんです。それから日本で一番、面積が大きくて14万3千かな。一番大きいんですよ。

今、日本で22、23のFSC認証したところがありますが、その中でもそれだけの大きな面積、そして自治体で一番取って、そのFSCというのは、私に言わせると生きていない。山梨県は活かしてないのではないかという気がします。

○知事

認証材にはなっているけれどもね。

○参加者

このおはし、最近、目にする。これは広く普通に売られているわけではなくて、知っている人しか知らないというところがあるんですが。

○参加者

全然知らないです。

○参加者

まだまだ山梨県が、その森林を環境に配慮して、森林をつくっているんだという、そういう認証をもらっているにもかかわらず、そのことの宣伝ができていない。これは森林環境部の責任かもしれませんが、もう少しそのへんを積極的に宣伝してほしい。

その1つとして、特に子どもの、やっぱり環境教育というのは小さい子どもからしなければいけないということで、子どもにぜひFSCの認証材でつくった積み木を、各幼稚園、各保育園、そういうところに配れるように。

そして、そこで山梨県はこんな素晴らしいことをやっているんだと。それは環境につながっているんだということで、ぜひ宣伝してほしいと思う。そういう事業を起こしてもらえないのかなという気がしています。

○参加者

よろしいですか。

私も、5、6歳の子どもを対象にした環境教育というものを、出前講座という

感じで10回ほどさせてもらいました。

幼稚園・保育所に行ったんですが、今おっしゃったように、もちろん小学生も若い人もかわいいんですが、もっとかわいい低学年の人を対象にして、私はさせてもらっているんですね。

実際、自分が取り組んでいるのは、風に焦点をあてたエネルギーというものを、子どもに体験させたんですね。風というのは、ほとんど小さい子は風が好きですね。ブランコに乗っても風です。走っても風です。風ってなんだろうって言ったら、よく分からないんですね。

風というのは吹けば、自分の髪の毛が動くと。それがすでにエネルギーなんですね。自然に自分が自分でつくれるエネルギーというのが、どんなに大切で、どんなに大変かということ、小さいうちから知って、そういうものを教育したらいいんじゃないかと思って、幼児教育の中に組み込んで、そしてやがては環境教育のことだったら山梨だと、発信していこうと思っていますね。

特に幼児教育のエネルギー環境教育が、山梨にぜひ来たらいいという、そういうように展開していこうと、私は思っているんですが、ただ幼稚園、あるいは保育所のカリキュラムとか、いろいろな話を聞きますと、なかなか分かっているけど、やってもらうことができない。ぜひ来てくださいとまではいかないんですね。

ですから、ぜひ1年間あるわけですから、春夏秋冬の間に1回はそういうものを取り組んで、山梨といたら森林があって、太陽があって、そして自然エネルギーがいつでも学べるという、そういうシステムにして、やがては日本から外国へいくように、そういう教育をやっていきたいと思っていますね。

そういう意味で、ある程度、助成というか、そういうものが必要ですし、もちろんボランティアといっても、何も分からないボランティアなんて、やる人は1人もいないわけですね。

ですから、ある程度、かかるところはきちんとお金も出して、そして払うべきものは払って、いただくものはいただいてというように、幼児もそうですし、家族の一員として、そういうものに還元するような、そういうシステムができたらいいなと、私は今やっているところですけども。

○知事

エコティーチャーというのは、やっぱり1回っていただければ、いくらか実費弁償的なものはあるんですか。

○参加者

そうですね。実費というほどではないですが・・・。

○環境創造課長

県のエコティーチャーの制度でいえば一応報酬を・・・。

○参加者

ただ、専門参加で、ぜひとお願いされないと、なかなか。ぜひやらしてといっても、まだそこまで力が動かないんですね。

○知事

今、保育園を主としているんですか。

○参加者

そうです。保育園と幼稚園でさせていただいているんですね。でも、やっぱりなくてもよかったって、またやっってくださいという・・・。

○知事

教えるのは、しかし難しいですね。

○参加者

継続することが大切ですよ。

○参加者

今、幼稚園・保育園、私も本当に小さい子どもからと思っているんですが、学校林というものがありますよね。小学校とか中学校で持っていますが、私はやっぱりそうではなくて、そうではないというか、やっぱり幼稚園とか保育園が、いわゆる学校林と同じように、保育園林か、あるいは幼稚園林というような名前でも何でもいいんですが、そういう保育園とか幼稚園が使えるような場を県で用意してもらえないかと思えますね。

というのは、もちろん、例えば武田の杜とかありますけれども、そうではなくて、やっぱり子どもたちがそこで自由に使える。そういうフィールドを提供してもらいたい。子どもたちが、そこで自然を通して環境に対して目覚めていくという、その場が必要ではないかなと。

○知事

一応、武田の杜とか、そういうものを提供はしているんですけどもね。

○参加者

そこで自然体験するという事は、たぶんどこへ行ってもできるんですが、そこで自由に何か物を、例えば植えたいといっても、許可が必要だとか、ここには植えては駄目だとかというように、何か結構厳しい縛りがありまして、なかなか自由に使えないので、そういうところを、一応、武田の杜に近いので、やらせていただければいいなと思っています。

私たちの会では、こういうことをしてまして、今、毎月1回いろいろな園に行っているんですが、子どもたちに、さっき先生がおっしゃった積み木とかを通して、いろいろな山梨の森林の大切さを訴えながら、子どもたちに環境教育も交えて活動しているんです。

でも、それがとても喜ばれるんですが、やっぱりそれは乳幼児だけではなくて、そこから先の生涯ということを考えて、この会を立ち上げた方が県の林務行政の方なんですが、生涯教育ということを考えて、大人までそれを継続してやっていきたいということも、プランの1つのなんです。

でも、やっぱり幼稚園とか保育園は、さっきもおっしゃっていましたが、割と比較的、受け入れてくれやすいんですが、その上の文科省の管轄の学校になりますと、やっぱりカリキュラムの問題があって、なかなか「そんなものがあつたんですか」という感じになるので、なかなか広めることができない。

この間、先生がちょっと児童館のほうに行っていらっしゃるので、子どもたちの話、やっぱり苦労して下さったんですが。

○参加者

南アルプス市でハウス、トマトを作っていますけれども、うちのところは間伐材でなくて、あそこは果樹地帯ですから、剪定した剪定枝をおがくずにして、それを固めたものをペレットにしてやっているんですが、とてもそれが好評で、役場の中にはペレットの暖房機も入りまして、今どのくらいのカロリーが出ているというのが表示されております。それが順に広がっていくといいなと思います。

それは本当はそこで燃やしてしまうんです。燃やしてしまうと、いろいろな問題が出てきますね。だけど今、その装置があまりないので、ほとんどの人が燃やしています。だから、そのペレットをつくる装置が順に広がっていくといいなということ、すごく感じました。

それと先ほどおっしゃったように、私も小中学校へ要請によって、環境教育で伺っています。私は特に本当に足元の問題で、ゴミの問題を扱っています。

特に紙の問題と、そして缶の問題、ビンの問題を扱っているんですが、あまりにもいろいろ知らないことが多すぎます。子どもたち。

そして、お父さんたちが飲むビールのつまみに、お豆が入っている袋がありますね、必ずそれにもプラって書いてあるんです。それはプラのところへ入れて持っていくと、資源に活用できるんです。

でも、みんなそれを燃やしてしまうんです。子どもにゴミを持ってこさせたんですね。それを自分たちで分類したら、こんなものが本当に燃やさなければならぬと、わずかになっています。そのくらいにいろいろのことを知らないことがあるんですね。

小学校で始めるより、やっぱり幼稚園。小さい時代から始めることが一番いいだろうということ、すごく感じました。

○知事

ゴミの分類というのは難しくてね。私なんかは小さいころからやっぱり、もう習い性でね。これはプラ、パッパッと分かるんですよ、きっとね。

○参加者

そして私は一昨年、ドイツへ行ってきました。環境問題について、いろいろ勉強してきましたんですが、幼稚園ですでにそれをやっている。難しいことは言いません。おうちから持ってくるなり、幼稚園へ来るまでに、ゴミを拾ってきます。缶はこの中へ入れなさい。紙はこの中へ入れなさい。ビニールはここ。もうそれが幼稚園に据え付けられているんです。先生がもう、これはこう入れなさいということ、すでに教えているんです、そこで。

もう小学校はそれ以上になります。森へ行って、森の役目とか、そしてCO₂のこととか、五感を通して。もう中学校になると、教科に全部入っていて、そしてやっています。

そういう点で、小さいときから順に、段階を踏みながら、あまり難しいことをしなくて、楽しみながらできるということで、これも非常に必要ではないかと思えます。

○参加者

そういうものを山梨から発信したらいいですよ。山梨に行ったら、絶対それを学べるとかね。そういうふうにしたいですね。

○参加者

地域の小中学校の環境学習というものがあるんですが、地域の公民館等で行う学習もあるんです。そういうところへ私も出向いて話をするときがあるんですが、リサイクルというところで、先ほど知事おっしゃいましたように、このリサイクルがいろいろなものがありますが、中でも昔は怒られていたんですが、布団のうち直しとかというところで、非常に排出量が多くなりました。

県内でも、調べたところ、推計ですが140トン、年間出ていると。東京都も非常に一番出ている、排出される可燃ゴミのうちの1つというようなことであります。うちの協会と山梨県の綿の協同組合ですか、それと温暖化防止センター、この3つの団体が協力しまして、何とかこれを、中綿をリサイクル化できないかということで、プロジェクトを立ち上げまして行いました。

県内にも寝具工場がございまして、綿を洗って、また機械で、再度使えるようにするのが、およそ2割近くあります。そのつくった布団を実際、もしそれができたら使えますかというようなアンケートを、実は組合祭りのときにやったんですが、実際、同額であれば購入する方が21%。安ければ購入するが68%ということで、意外といわゆる布団の綿のうち直したものでも使いますよということで、いろいろな意味での環境に、非常に貢献したいという方が増えてきました。

ただ、もう1つ課題がございまして、つくったものを、その再利用ですね、その布団を購入してくれるところが、なかなか望ましくいかないというところで、できれば公共施設とか、その布団を真っ先に使っていただければ、その布団がCO₂も削減しているってということにもつながっていますので、今、廃止になってしまったんですが、県の例のエコ商品ですか。リサイクルしたもの、ああいうようなものが、もう一度、認定か何かしていただいて、使っていただけるようにしていただければ、非常にありがたいなと思ひまして・・・。

○知事

エコ商品のあれは、やめてないでしょう。何発注といたしましたかね。エコトリアル発注というものです。あれはやっているんじゃないですか。

○環境創造課長

今、おっしゃったものは、残念ながら今はやっておりません。認定製品というものを今までやっていたんですが、今、JISの制度ができてきたので、ちょっと今それをやめてしまっ。

○参加者

焼却する際のCO₂もかなり出ますし。

○知事

それは、すでに一応、製造はしているわけですか。一応、商品として・・・。

○参加者

あと芸術家に加わってもらいまして、この間、出展しましたら、美術館のところの文学館で、商品として扱ってくれるというような話も出まして、そういうところに流通に乗せていけば、何とかできるかなと思ったんですが、数をこなすには、そういう施設に使っていただくことも。

○知事

布団リサイクル協議会というものを・・・、そうですか。

○参加者

これも確か県のやつでやりましたよね、この問題について話は出たと思うんですが、綿をうち返しても、人の使ったものについては嫌だというような人がかなりいるということで、甲府の場合だったら温泉組合とか何かで、貸し布団であれば、貸し布団で出せば、使ってもらえるというような話がこの前されていましたが、ですからそういう布団については、うち返したものを、そういうところへ貸し出しをして、使ってもらおうというような話が出ていましたので、いいことだなということで、私は聞いていましたけれども。

○参加者

その件につきましては、レンタル業者が、国内大手のレンタル業者がありまして、先日、東京のほうに出向きまして、その企業とも交渉してまいりました。まだご返事はいただいてないんですが、もう少し数日見まして。

○知事

これはあまり全国的にはやってないんですか。

○参加者

やっていらっしゃるところもあります。その自社で布団をレンタルなさっている、会社自体はされているんです。行政で廃棄された、その布団を、先ほどちょっと誰が使ったか分からないというようなことが1つのネックになっているんですが、レンタル業ですと、集めた原料の資源になりますので、新しくつくったものとして提供ができると。

○知事

市場が、マーケティングがうまくいくといいと思いますよね。いかがですか。

○参加者

ちょっと今、話が元に戻ってしまうんですが、森林の話の中で、生徒さんの話もあったんですが、今、東京の新宿区のほうで、産まれた子どもに対して、出産のお祝いに積み木とかをプレゼントするということがあるんですよ。そういったプレゼントって、すごく大事にすると思うんですよ。

そこで、どういう感じでやっているかということ、新宿区だと思うんですが、このおもちゃ美術館というのがあって、それはもともと木育をすごく進めているんですね。木でそういうことを進めていて、そことかわりのある岐阜から木を持ってきて、こういうものがありますよと、始めたところなんです。

山梨県なんか、本当にすぐそばに木がありますから、そういったことを、産まれたときから・・・。

○知事

産まれた子どもにプレゼントする。区役所がね。積み木を。
積み木というのは、子どもの教育上、いいんですか、幼児の教育上は。

○参加者

実際、今おっしゃったこと、うちの園では木の国サイトから、ちょっとこのぐらいの手に乗る、赤ちゃんが使うような積み木を出産のプレゼントにお母さんたちにあげるんですが、知事にご存じかどうか知りませんが、木のおもちゃではなくて、もっと早く始まったのは、イギリスでブックスタートといって、産まれた子どもに本を手渡して、本に親しみを持って関心を持つ、そういう気持ちを育てるということで、ブックスタートというものを山梨県でも、甲州市とかいくつかやっているんですが、その積み木バージョンですよ。

それをちょっとやっているんですが、それはもう県としてやると、すごくいいのかななんて。やっぱり県民性ということがあるので、ブックスタートだと、もう2番せんじ、3番せんじです。

○参加者

昔の時代を考えると、我々が生まれた時代の一番最初、赤ん坊のときに触ったと思ったのは、木の積み木とか、木のものだったはずですが。今はそれに代わってプラスチックになったり、あるいは金属のものになっている。それは医学的に、例えば人間の血圧とか測っていくと、木のものに触ると、鉄のもの、プラスチックのものに触る、それを測っているんですが、そうすると木のものに触った状態というのは、人間にとって一番いい血圧だったり、心拍数だったりになるらしいです。

ですから、そういうことから考えても、やっぱり、そんなことは昔の話だと言うかもしれませんが、今、話があったように、木のものを子どもに与えるというのは、非常に意味がある。

そこで私は、ぜひそれを山梨県でF S Cということをして、F S Cの積み木だよと。山梨県、日本に誇る、世界に誇れるんだよということをして、強くいってもらえればいいのかと思います。

○知事

確かにそれは1つの考え方だね。

○参加者

先ほどからペレットの話が出ていますが、山梨市では23年度に各学校にペレットが入るということで、それにはすごく子どもたちに、ペレットでもどういうふうにつくられているのか、その工場見学ということで、エコティーチャーとカウンセラーの会を山梨市で発足しましたので、26日にペレットの工場を見て、そのペレットを使った料理を作るという企画を予定しているんですが、やっぱり子どもに、そのペレットがどういふふうに出るのか。

そして、また私たちの山梨市も果樹地帯ですので、剪定のくずがいっぱいありますので、ブドウでつくったペレットと、桃の枝でつくったペレットを、今、エコハウスのほうで試しに焼いているんですが、やっぱりブドウのほうは火力があ

るけれども、桃の剪定枝というものは駄目だという、今いろいろと参考にしています。

そして、やっぱり外で使う、ハウスで使う場合はいいと思いますが、家の中で使う場合には、あまりよくないなというような。

○知事

やっぱり多少煙が出るということですか。

○参加者

はい。火力も少ないし、燃え方が何か均等にいかないような・・・。

それを今やっているんですよ。2月からずっとやっていて、私もエコハウスの推進委員になっていますので、会議があったときとか、教室があったときに、みんなでいろいろして、実験をしています。

○知事

重油とか石炭ボイラーに比べれば火力は低いでしょうね、それは。

○参加者

でも、捨てないで野焼きにするよりは、それにしたほうが。

やっぱり用途、用途があれば。

それから、その剪定枝を使ったものは、野外で燃やすものに使えばいい。そういうように、もう少し研究していく必要があるかなど。飯島さんというところで、そのペレットを製作しているんですが、それで今、試作をして。

○知事

今、清里の清泉寮へも持って行ってますね。

確かにペレットの場合には、材料によってずいぶんエネルギーが違ってということ、割かしいいますよね。だけど通常の間伐材の場合には、エネルギーは高いですよ。

○参加者

間伐材がいいと言っていました。

○知事

剪定枝となると、ちょっと低くなるかもしれませんね。

○参加者

桃が一番火力が少なくて。

○参加者

剪定枝のことで言いますと、2月ごろ剪定しますよね。甲府盆地が煙でかすむんです。私は南アルプス市の高台に住んでおりますので、眺めると本当にもう時期にはかすんでしまうんです。

それが剪定枝はいいですよ。あるいは家庭から出る伐採や何かはいいですよということになっているから、そんなようになっているんですが。でも、これからそのままでいいのかということが、必ず議論にあがってくると思うんですよ。

やっぱり環境を目指す、標榜する県ですので、やっぱりそのへんも何か、今のようペレットにするかですね。何らかの方法でチップ化するかというようなことで・・・。

今、せっかく話が盛り上がってきて、やっぱり環境を目指す県ですので、幼児教育から環境教育ですね。自然の中で子どもを育てるといふ、その先進県になってほしいですね。ぜひ、知事さんにそのへんを力を入れていただいて。

私も今、キャップを回収しています。使用済みのペットボトルのキャップ。知事さんからちょっとご助言いただいて、小野課長さんと詰めをしているところですが、今、小学校215校のうちの半数を超えてきましたけれども、今、巡回をして歩いています。それと幼稚園・保育園も回収をしている。

エコティーチャーとしての話は、出前講座は1回しかまだやっていないですが、もうすでに100回を超えていまして、それは全部ボランティアです。キャップを回収していただくということで、ついでに話を30分、40分させていただくんですが、でもそれによって、今、幼稚園・保育園でどうなってきたかという、甲斐市では公立の保育園が8園あるんですが、そこは毎年、連絡が来まして、やってくれと。

行くと、ちゃんと回収ボックスがあつて、朝ポケットへ2、3個入れて、子どもがそこへ持ってくるんですよ。そのことで家庭で話題になるんですよ。キャップを何で集めるのかという話になって、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあさんも一緒になって集めようということで、今、平成20年5月から始めて、82トン集めたんですが、それでポリオワクチンが4万1千人分、もうすでに送ることができました。

それがやっぱり幼児教育につながっていく。やっぱり、こちらでも言われたように、できるだけ小さいうちから教育というのはやっていく。我々が育った時代を見ると、自然の中で育ったんですね。それで五感で、先ほど風の話が出ましたが、五感の中で人間の情操というか、そういうものが育まれていったんですね。

今は、もう即席で、そんなことよりも知力、知力ということで、短期間に、短時間にその知恵を付けようと。ところが人間性の育つ時間というのが熟成して、ゆっくり育つというのは無視されてきているんですね。効率化とか省力化が求められるあまり、人間性というものが置いてきぼりになる。ぜひ、皆さんと大体ご意見、同じようですので、環境教育の先進県として、幼児教育から力を入れていただきたい。

○参加者

学校のカリキュラムの中では、4年生が環境教育をするというように決められているんです。だから学校でも講演会をしたいけれども、4年生だけ。決められているんです。

だから、ぜひ幼児教育から、話がありますので・・・。

○参加者

保母さんを集めてやりましたけれども、保育士の先生方もどうやって園児たちと取り組んでいるのか分からないので、何か出てこないんですよ、アイデアが。もう班で集めて、グループワークでやってもらったりしたんですが、なかなか子どもの気持ちになってもいけないところもあるし、リサイクルなんて言ったら分からないじゃないですか。いきなりそこからいってしまうんです。

○参加者

UTYのエコの歌。やっぱり子どもって、歌とか、そういう語るものとか、あ
あいうもので、それが歌で浸透すると、リサイクルの歌があるんです。本当にそ
れが・・・。

○知事

UTYで歌ってるあれですか。

○参加者

はい。

○参加者

あれは私いつもCDを持ち歩いています。あれを最初にかけるんです。

○参加者

考えた人の、そのポリシーがきちっとあって、そういうことを伝えたいという、
すごくその企業と子どもたちと絆を結びたいと、そのポリシーがあるんですね。
それが素晴らしくて、やはりそういうものから入って、あとはやっぱり遊びが幼
児の場合には必要なのかなと。

それから、あとちょっと持ってきたんですが、せっかく県でレインボーアクショ
ンと、何か知事が考えたということ、ちょっと聞いたんですが、これは入園式
のときに使っているんです。

レインボーアクションのいろいろな冊子がたくさん出回っているんですが、そ
れが有効利用されていない気がして、やっぱり学校とか保育所とか、そういうと
ころで、きちっとそれを伝えて浸透させる教育が必要だと思うんです。私、これ
はいつも入園式のときに使っていて、今年はこの環境家計簿に取り込んでみたん
です。全部配って回収したんですが、なかなかうまくいかなかったの、来年は
やっぱりデータを持ってきてもらって、実際にそこで教えて書きながら、それは
全部回収できるので、しかもそれをやってみた、ちゃんと戻してくれたお母さん
たちは、やっぱりやってみて効果が、確かに「ああ、そうだったんだ」「先生、こ
ういうことだったんですね」「うちのこんなにあれだったんだ」とかと、そうい
うね。太陽光を実際に乗せている人なんかも、ほとんどゼロに近い状況で、すご
くそういうことも自分でも分かるので。

それから保護者同士の話し合いでも出てくるので、また今年もちょっと実際に
呼んで、みんなで集まって、その場で付け合いながらやろうかと思っているん
です。せっかくこんな素敵なものがあるので、それがもうちょっと・・・。

ただ、ペーパーとして出すと、それは右から左で、読まない人もたくさんいま
すので、そうになってしまうのももったいないので、きちっとそれが伝達でき
るように、私学文書課でもいいですし、児童家庭課でもいいですし、そういうこ
とを義務付けではないですが、何かしたらいいかななんて思っています。

ここにちょっと、さっきも言ったんですが、マイはしと、ちょっと私、ひっか
かっているもので、マイはしではなくて、そういう・・・。

これはマイはしではないので、これは間伐材を使った割りばしです。これは使っ
てもらわなければ困るもので・・・。

実際に企業だとこんなふうに、ちゃんと書いてあるんです。ここに森林を大切にしますという、これは企業でマイはしとして、今、お店に行くと、マイはしということが浸透し過ぎていて、割りばしではなくて、結局それをまた洗って使うみたいなはしになっているんです。

そうではなくて、これはそういう森林資源を大事にするということで、割りばしなんです、これはそういう間伐材のものですよということを、企業でうたってやっています。

それは県でもそういうことを、例えば企業にこれを売って、こういうものを企業で買っていただいて、こんなふうにやっている企業もいるので、そういうようにして使ってくださいということを宣伝していただきたい。

○参加者

ただ、間伐材、間伐材と言っても、間伐材もいくらで売って、出してくるのに、それに費用があまりかかりすぎるようであれば意味はないわけですが、本当に出しやすいようなところから始めて切って、周りの木に光がいくようにということで間伐するわけですから、混み過ぎているところを切るわけですから、それはやはり運びやすいところまで出してもらって、それを使っていれば、一番いい方法ではないかと思うんですが。

あと、先ほどのペレットの問題が出ましたけれども、もう10何年前ですか、富沢町で確かゴミを燃料資源としてつくっていた経緯があるはずなんです。そのものは、つくったけれども、販売するところがなくて、結局、最終的にはゴミの焼却場へ入れて、みんな焼いてしまったという経過があるので、やはりそういう問題もこれから、やったところがあるわけですから、それについても十分これからゴミの問題とは、切り離すことのできない問題だろうと思いますので、そういうものを検討していかなければいけないのではないかなと思います。

当時やっていた人は、みんな今度は退職してしまっていますから、そのあと私も向こうに友達がなくなってしまったので行っていませんが、一時そのものを見せてもらったんですが、十分使えるんじゃないかって言ったんですが、ゴミからやったというだけで、引き取り手がないということで、そういうこともあったようです。

ですからやはりこれからはゴミの減量ということが一番大変な問題だろうと思うんです。これから今、災害があったところは、きれいにしても、今度、これからまだ片付いてないところは、ゴミをではどこへ出すのか。恐らくゴミの問題で、いろいろな問題が出てくるんじゃないかなと、私は思うんですが、そういうことのないようにしていくためには、やはりある程度の焼却炉があったにしても、追いつかないと思うんですよ。

ですから、やはり環境というものは幅広くありますので、そういう問題も十分考えた上で、それにはやはりそれなりのいろいろな方法があると思いますので、十分これから考えてやっていただければなと私は思いますが。

○参加者

過日、テレビを見ていたんですが、間伐材をはしにして、業者がそれを自分た

ちで企業として成り立つのは、1膳が2.5円と、確かありました。こちらで言うような、それを引き出す運賃、何というかと、果たしてそれができるかどうかということ。それ以上になると、これは大変だということを思いました。

やっぱり今おっしゃるように、あまりエネルギーをかけないところから取り出してきて、それを上手に使うというのが一番大切。

そういうところでなくて、いろいろなところの森をきちんとして、二酸化炭素の吸収をたくさんしてもらおうということは、近くばかりでも駄目ですよ。本当はね。

だけど、そういう賃金のことや何かを考えると、大変だろうなど。

○知事

なかなかやっぱり市場には乗らないんですよ。結局、企業がCSR活動の一環としてお金を出してくれたりとか、買ってもらったりとか、割と高くて。ということに当然なりますね。

FSCを使った紙も、三菱製紙で製造して、県でも使っていますけれども、それを使ってくれる企業もあります。やっぱり一種のCSRの一環ですよ。そういう環境に優しいものを使っているという。

なかなか一般の市場にはのらないですね。1膳2.5円というね。中国から安いものはいくらでも割かし入ってくるものですから。

リサイクルでつくった割りばし、あれはいいですよ。あれは安くて。普及し始めましたね、あれ。あのプラスチックの。

○参加者

私どもも、そのトン数なんですけど、今、環境省の地球温暖化の地域対策協議会というのがあるんですね。その中には個人だけではなくて、NPOであったり、事業者が入っているんですよ。

その事業者の中には、例えば私どものように、廃棄物の処理の関係、物流関係とか、いろいろな方が入ってきているので、そのもち屋ですかね、そのいいところを生かしていけば、私どもこの布団を運ぶのは、もうボランティアでやろうとしているんですよ。

そうすると、コストがだんだん低くなるんですよ。そういう教育を地域の中でできないか。例えば大工さんに入ってもらおう。木工をいわゆる工作する人に入ってもらえれば、その分が浮いてくるわけですよ。

そうすると、売価というものが、また下がってくるということで、地域でそれを、また遠くで売らないで地元で売れば地産地消になると。そういう地域の環境活動をなさっている方が、つながりをもっと大きくすれば、今日のテーマでもあります、環境活動の輪を広げようというのは、必然的に生まれてくるような気がするんですが。

○参加者

幼児教育に一番大切なのは、損得ではなくて、善悪で教えるんですよ、まず。これをやったら損かとか、これをやったら得かではなくて、いいことかな、これ

は悪いことかなということから始まるんですね、5、6歳は。

子どもって、ものすごい正直で、得をしたら「やったー」って言うし、負けると「悔しい」って言うんですね。でも、それはいいことかなとか、悪いことかなという判断からすると、みんな静かになって、これはやっぱりやったらいいなというように、子どもってそういうように敏感なんですね。

さっきおっしゃったように、五感でいろいろ学ぶんですが、それもやっぱり三つ子の魂百までもという日本もそうですが、西洋もそうだと思うんですが、小さいころからやっぱり家庭環境の親の教育だったり、周りの家族の影響は大きいですね。

そのときに、子どもがどういう環境で育ったかによって、ずいぶん違うんですが、あるきっかけで、「ああ、すごい」と思うのも早いんですね、子どもって。がっかりするのも早いんですが、飛び上がるのも早いんですね。そういうことをもうちょっと自分たちが小さいころはどうだったかなと思うと、何もしないで、親にほっとかれて、山で遊んで、遠足というところとどんぐり拾いが遠足でした。そして、いなご取りが遠足でした。

そういう時代と今、もうまるで違ってしまって、幼稚園に行くと、「ダイオードって知っている」って、私、言われたんです。幼稚園生に。

その子どもも、こんなに眼鏡の分厚い子で、「先生、知っている」なんて。「うーん」と。そのくらい時代は変わりました。

そうすると、どういうところに、ではその焦点を置いたらいいかといったら、まず子どもに本当のことを教えるべきですね。それには、自然のところへ行って、別に詳しい話はしなくても、「かわいいね」とか、「この川、きれいだね」とか、「きれいな音だね」とか「小鳥がきれいだね」と。「太陽はサンサンとしているね」ということから学んだら、やっぱり森を大切にしなければいけないということは、小鳥もいるし、生きている私たちもよかったねというところへ帰るんじゃないかって、最近、私も思っていますけれども。やっぱりみんないい人で、本当に素晴らしいものを持っていて、これを活用しなかったら、山梨は本当に明日はないですよ。

本当に山梨って素晴らしい。私は栃木県の生まれですけども、山梨の素晴らしいなというのは、毎日富士山が見えて、当たり前前に富士山が見えて、最初は「今日も見えた」って言っていたんです。毎日見ると、「今日見えた」と、それくらい慣れてしまうということがあるんですね。

だから、ぜひその幼児教育からやることの大切さというのは、そういう意味でも私は次々と展開して、いろいろな人たちと一緒にあって、環境の勉強をしたりして、それでやっているところで。

私は、自分の話ばかりでごめんなさい。幼児教育がいかに大切かということ私を今日は言いたくて、今日出席しました。

○参加者

森林行政に1つ提言なんですけど、先ほどの話の続きになりますけど、先ほども間伐材を搬出するのに費用がかかる。というのは、東電でも、ダムに流木がたまる

んですよね。今まではあれをトラックへ積んで搬出していたんですが、とてもコストがかかりすぎて、では現場でチップにしてしまおうということで、自走式のチップパーを導入したんですね。

それでチップで山にまいてしまうと。ですから今、搬出に大変コストがかかるので、間伐材は山で自走式のチップパーにかけてチップにする。それを袋にして、蹴ってやれば、一人で転がっていきますので、搬出方法が・・・。

○知事

それが一番いいですよ。木材を守っていくというのは大変ですからね。本当に、簡単にチップにできる機械というものはあるんですか。車に積んで、パット。

○参加者

巨大なキャタピラがついてですね、どんなところでも自走式で走って。

そうすれば、それを里に下ろして、ペレットにしてペレットストーブに使おうと思いますね。そういうようなことで考えていただいて、少しでも間伐が、山の手入れが前へ進むように。

もう1つは、河川の中に流木。木が育ってすごいですね。あれはいったん災害というか、台風や何かのときに、橋に、橋脚にかかって橋が壊れたんですよ。あれも、そういう方法で処理すれば進むと思うんですね。

ぜひ、そんなこともお願いできればと思います。

○知事

その間伐材は従来、大体、切り捨て間伐と。みんな捨ててきましたよね。今はもうずいぶん持っていくようになりましたね。それはチップにする、ペレットということもありますけれども、今、材価が上がったものですから、十分使えるんですね。コスト、採算が取れるようになってしまった、相当ね。

だから、山梨なんか、21年の木材生産量というのは、その前の年より倍なんですよ。倍に増えた。一挙に倍に増えたというのは、どうしてかなと思ったら、やっぱり間伐材を、捨てていたものをみんな持ってきているんですよ、どんどん。

それで、それを富山県か何かのチップ工場へ持って行って、そこでいわゆるボードをつくっているんですね。国内のものがやっぱり多くて、住宅業者がみんなそれを買っているということでしたけれどもね。ずいぶん変わってきましたからね。いかがですか。

○参加者

今いろいろ出ていますが、私もお話の中で1つ、ゴミですよ。地域でいろいろやってくれるので、結局、いろいろなプラスチックとかは分別できた。あと、今度は何かという、生ゴミですよ。

生ゴミの処理というのは、なかなかやっぱり難しいところがある。私、生ゴミ処理機を買って、それで熱とあれをある程度、回転させながら、それをどんどん肥料に戻そうということで、そういったようなことをちょっとやって、非常にやっぱりいいですね。

私たち中央市ですと、豊富地区ですと、それを昔の村をあげてやっているんですね。あそこは農家が多いものですから、その使い手が多いわけですね。ですか

ら、そういうことでうまく循環しています。

ですから中央市でも、それから田富ですとか玉穂地区でも、それをやろうじゃないかといったようなことを、今、訴えているところなんです、非常にそういう形で需要があれば、やっぱり先ほどの地区もそうなんです、回っていくといったようなことだと思います。

○知事

生ゴミ処理機というのは、ずいぶん今はいいものが出てきて、十分いいようですね。やまとなんていうスーパーは、生ゴミをやっていますけれども。

○参加者

甲府でもボカシを使って肥料にということでやっているんですが、ただ広がらないというのは、普通、ああいうマンションに住んでいたりなんかする人ですよ。若い夫婦にしても何にしてもそうなんです、そういうところに住んでいる人は、それをつくっても引き取り手がないということで、甲府でもかなりそれは検討してきたんですが、結局、百姓をやっている方で余分にそうやってつくっているわけですよ。ボカシを入れて。

ですから、よそからまではいらぬというようなことになってしまって、結局だから、ああいうマンション関係だとか、それから若い人たちが入居してきても、つくってくれと言っても、じゃあもとはつくっても、じゃああとはどうするんですかと。いっぱいになったら、どうするんですかと言われるようなことが多すぎて、それで結局、先へどんどん増やしていこうと思っても、伸びないというのが現状だと思うんです。

○知事

なかなか、そうですね。結局溶融炉を使って、みんな燃やしてしまうと。

○参加者

使ってみて分かるんですが、大体1カ月の生ゴミが、ほんの、こんな量になってしまって、ほとんど水ですから。ですから、それを考えると、あれを燃やすのは、大変なエネルギーを使うんだなと思いますね。

○参加者

60%ぐらいが水分ですからね。

○参加者

ゴミ問題をやっていまして、やっぱりこちらでおっしゃるように、生ゴミ処理が一番今、私は問題だろうと思うんです。そして日本で大体1,850ぐらい市町村があるようですね。

それで市町村で集めているのが、98市町村。その63市町村ですか、北海道。あとが本州。ほとんどのところが集めていない。

○知事

何を集めるんですか。

○参加者

生ゴミです。

○知事

生ゴミ収集を。なるほどね。

○参加者

それは恐らく、こちらでお話になったようなEMボカシとか、そういうもので自分自身が肥料化して、そして土へ返しているんじゃないかと思うんですが、うちのところでも、それが問題になっているのは、つくっても入れるところがない。今おっしゃったように。植木へ入れても、毎日、毎日では、とてもじゃない。毎月、毎月はとてもじゃない。

そういうことで、だから私も大きい何か、役場か何かへそういうものをつくって、そして皆さんが生ゴミを持ってきたら、それを肥料化して、そして安く売っても、あるいは自由に持って行ってでもいいから、そういうようなことをしてもらえますかと言ったんですが、ちょっとそれも無理だったようで、今はなくて、年に3回、ボカシ和えて、EMでつくっている、あれを2基、1袋1キロかな。それを2つか3つ、一般市民に自由に持ちにきてくださいということで、ただ配布しております。

○参加者

その件で被災地の仙台市が、家庭からの生ゴミは堆肥化する工場をつくっていますね。広域化してやらないと、個人レベルでもってやるとなると、圃場もないとできないですし、やっぱり成分的な問題とか、あと炭素と窒素の関係とか、いろいろありますので、農業に直接結び付けるとなると、非常に難しいところがあると思いますので、そこはやっぱりスキルを持った方々が実際に交流の中でもって集めて、つくって、またJAなりと連携していくというようなことが、やっぱり必要になってくると思います。

そういう1つのフォローができないと、なかなかやっぱり難しいんじゃないかと思います。

○参加者

一番、どこの市町村も、それが問題なようです。それはみんな可燃物と一緒に出してしまいます。そうすると、かなりの温度を上げないと、燃え切りません。温度が低いと、ダイオキシンが出てしまいますからね。

あとは燃料の関係や何かでも、生ゴミをどう処理するのが一番いいのか、考えていただきたい。

○知事

溶融炉なんかに生ゴミを入れるけれども、生ゴミの入っている、その入り方が日々違うものだから、温度が変わったりしてね。非常にその溶融炉がうまく動かなかったりしますよね。難しいようですね、非常に。

○参加者

そして1ついいですか。

山梨県には環境憲章というものがありますね。平成5年に、これは設定されましたね。それを私は一般の人たちにも、もう一度、こういうものがあって、そして市民が主役で環境を改善するんだよということが出ているんですね、それに。

そういうものを市民に私は分かるような方法で、広めることが必要ではないか

と。5年ですから、もう10年経っていますよね。もっとですね。そうすると、忘れることが非常に多いんです。

環境でたまたま携わっているから、県でこういう施策でやっているんだということは分かりますが、そうでない人は、そしてあまりにも環境に無関心な人が多すぎます。ですから、ぜひそういうような・・・。

うちの会では、毎年総会に、その環境の憲章を載せています。

ほかの人たちに声が届くような方法でPRしてほしいと思います。

○参加者

では今日を機会に、私も憲章を広めます。

○参加者

そうですね、皆さん。家へ帰ったら、こういうものがあるよっていうことをね。

○参加者

さっきスーパーやまとの話が出てましたけれども、それを太陽光発電と結びつけてやってみるといいんじゃないかなんていう話もちょっと出ていて、地域の中で。その機械と太陽光発電で、太陽光発電を通してそれをやって、それが地域にあれば、もっと気軽にみんなができるんですよ。私たちもEMはやっているんですけども、やっぱりちょっと広がらないし、それを例えばオギノさんならオギノさんに太陽光発電を乗せて、そしてその機械を入れてもらって、それを稼働させるということでしたらいいのではないかと。

あと富士山の話が先ほど出たんですが、世界遺産にもしなるのであれば、甲府市の中心部、パークアンドライドみたいなすればいいのかなんて思ったこともあるんですが、富士山なんかは本当にそういうふうにして、パークアンドライド方式で、もう本当に世界的な、ドイツみたいな、ああいうふうには、環境都市になるようになさったらいいんじゃないかなんて思って。

○知事

スバルラインにのせないマイカー規制ですか。

○参加者

スバルラインだけでなく、富士五湖全体の、あのへんはもうやっぱり規制して、絶対入れませんということでやれば、もっと世界的に反響も出て・・・。

○参加者

先ほど環境憲章とありましたけれども、山梨県にエコツーリズムとか、よくお伺いなさっている方もいますが、例えば都市部において、これからCO₂削減をしていかなければならない企業であったり自治体があると思いますが、どうしても都市部でできない、屋上に緑化したり太陽光パネルを付けるしか、ほかに努力しようがないというところ、例えば県内に来て観光資源、つまり例えば山である、湖、いろいろなところを、何らかの活動を、森林活動なりした場合、県がそのしたことに対して、認証してあげるような制度というものが、山梨県の認証制度みたいなもの、独自のものをつくっていただいて、そして、家庭で取り組む日常生活の中でも、ガスコンロの火を小さくすると、どのくらいCO₂が減るかというようなものを、もしできましたら、県独自で策定していただいて、そういったもの

をツアーで来ていただいてやった方には、知事が認めてあげて、その認証を持っていれば、その企業で、例えば都市部にある自治体は、私のところはそれだけCO₂を減らしたんだと。カーボンセットまではいかないにしても、そのようなものがあれば、観光客もいっぱい来てくれるし、いろいろなところも整備してもらえりし、来たら、ただそれでCO₂が削減したということで、軒先の話かもしれませんが、せっかく豊かな観光資源があつて、今言うように環境憲章もございしますので、その2つを結び付けると、また有意義になるんじゃないかなと思います。

○知事

森林整備を、企業の森づくりなんて、森林整備をやってくれた企業に対しては、認証制度がありますけれども、森づくりだけではなくて、例えばいろいろな環境活動を。

○参加者

はい。評価をしてあげるということですね。

市なんかでは独自でやっているところもあるんですよ。日本では認証制度を持っているところもあるんですが。

○知事

どんなような活動が多いですか。

○参加者

今言った森林の、森の例えば下草刈りだとか、あとトヨタ自動車とか山を持っていて植樹をしたり、そういうことをしたりするんですが、そういう活動によってCO₂を森が吸収してくれる部分というのを、計算するんですよ。それは、また専門家の中でそれぞれ日本国内で大体決まっているそうなので、その数量に基づいて、一つ削減評価をしてあげるといふところだと思うんですが。ほかには、ちょっとこの場で思い浮かびませんが、出てくるといふので。

それをうまく県の観光協会か何かと、旅行業者と結び付けて、観光に来てもらうということと、いわゆる地域振興もありますので、それと同時に環境も保全されていくというような、何かくっ付けられそうな気がするんですね。

○参加者

例えば企業とか保養所とかが多いですよ。その保養所に結構、企業の森とか、企業の大きい段階で回ってきて、いろいろ活動することが多いと思います。

例えばですが、こういう個人レベルで来て、そこで何か環境活動すると、そういうものが取れる、地域通貨みたいなものをもらって、そこでちょっと周りで使えりとか、そういう個人レベルでもこういう山梨へ来られるような、小さい仕組みなんかをつくっていくと、また何か・・・。

○参加者

すごくいいアイデアね、それは。

○知事

地域通貨がもらえるとかね。

○参加者

ちょっと1杯飲めるぐらいの。

○参加者

菜の花畑をね、花が出た頃は、てんぷらとかをサービスするとか。油は次の年に・・・、何かにつけて来てもらうような。

○知事

菜の花プロジェクトというものをやらないといけないですね。

○参加者

たくさん、いろいろな意見が出まして、だから知事さん、どうでしょうか。今、世界でかなりやっているアースデーというものがあるんですね。地球を考える日。今、女性団体は教育の日というものを、ぜひ何とかしてほしいと、知事さんのところへお願いにあがったと思うんですが、それにぶつけても結構ですよ。アースデーって、みんなで今、言ったようなことが自由にトークできるようとか、あるいは情報交換とか、実践している方が、そういうようにアースデーというものを山梨県でつくってはいただけませんか。

○知事

アースデーというものは、すでにあるんですね。

○参加者

もう世界的です。アメリカから発祥しました。

○知事

それに類したものを、何かつくるということですね。

○参加者

一番近いところでは、千葉かな。大学の先生が自分の研究を発表する。高校は部活を発表する。小中学生は自分たちのやったこと、そして一般のおばさんたちは、自分たちがやったこと、考えたこと、そうするとみんなそれぞれ環境の問題について、情報が得られるし、自分も発信できるし、非常にいいですね。

そういうような日を1日、楽しみながら環境について、皆さんで考えてみる。それを知事さん、幼児教育からやればいいんですよ。

幼児教育から高齢者まで入らなければ駄目。皆さんが、ここに住んでいる人みんな。そういうようなアースデーを。

○知事

環境を考えるということですね。

アースデーって何日なんですか。何日って決まっているんですね。

○参加者

4月幾日か・・・。

ぜひ、知事さんも、課長さんも、今日はいろいろ出ましたけれどもね。ここへ来なかったら、得られなかった情報が私かなりあるんです。

だから、アースデーというようにして、そういうような人が寄り集まると、かなりの情報を得て、また自分の活動にプラスになったり、自分の生活にもプラスになりますから、ぜひそんなふうに。

○知事

さすがにやっぱり環境について、実践的な活動を本当に先端的にやっておられる皆さん方ですから、さまざまなアイデアをたくさん、盛りだくさんいただきまして、本当にありがとうございました。

全部が全部、大変、私も教えられて、よくよく考えてみたいと思っております。

いずれにしても、山梨の環境を良くするために、大変な情熱を持って取り組んでいただいているなど、とりわけ子どもの教育に始まって、ご熱心にやっただいて、ありがたいことだと思っております。

皆さんの情熱に負けないように、私どもも頑張りますから、どうかこれからもいろいろとご教示いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○司会

それでは以上をもちまして、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。